



～あんず通信では感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

3月：弥生（やよい）

3月3日は桃の節句でひな祭りです。色々な花が少しずつ咲いて、春が近づいています。スギの花粉は毎年ピークとなりますが、桜が散るころには落ち着いてきます。ヒノキはこれからゴールデンウィーク頃まで飛散します。

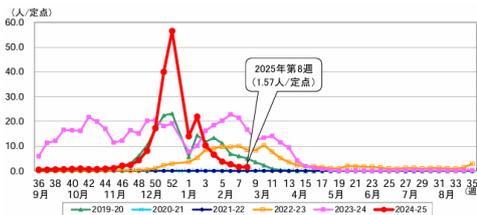
【感染症だより】

～RSウイルスについて～

RSウイルスが増加傾向です。RSウイルスは呼吸器感染症の一つで、咳、鼻汁、発熱、喘鳴などの症状がみられます。飛沫感染で、1歳までに5～7割の子どもが感染し、2歳までにはほぼすべての子どもが1度は感染します。乳児期早期では、細気管支炎や肺炎で入院になってしまう事があり注意が必要です。有効な抗生物質が無いので、対症療法を行います。特に、35週以前出生の早産児や心臓や肺に基礎疾患がある場合には重症化のリスクに対し予防注射が保健適応になっています。

～インフルエンザについて～

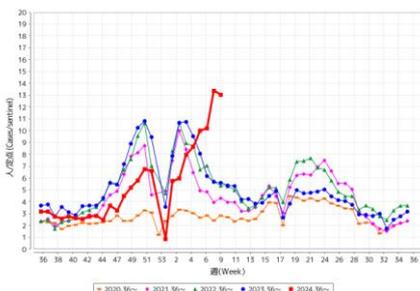
年末に流行していたインフルエンザはだいぶ下火になってきました。A型が減ると、春に向かってB型が出てくるかもしれませんが、今のところはさほどB型は出てきていません（赤い線が2024-2025冬シーズンです）。



～感染性胃腸炎について～

冬といえば胃腸炎です。食欲低下や嘔吐、嘔気始まり、下痢症状がみられます。はじめから嘔気嘔吐が無く、下痢で始まる場合もあります。発熱しない場合が多いですが、発熱を伴うこともあります。感染力が強く、保育園や学校で一人感染者が出ると、あっという間に広がります。吐物や下痢の接触感染ですが、ウイルス量が少なくても感染するので注意が必要です。ご家庭内では、オムツ交換やトイレやお風呂の共用で簡単に感染します。手洗い、うがい、消毒などで予防しましょう。体重の小さい乳児では、嘔吐や下痢が頻回の時は脱水症を起こします。脱水症の症状は、唇が乾燥したり、顔色が悪くなったり、皮膚の張りがなくなり、ポーっとしたり、目がうつろになって、動きが少なくなります。脱水症を予防するには、水分補給が重要ですが、嘔吐しているときは飲むことが出来ません。嘔吐が止まらないときは医療機関を受診しましょう。吐き気止めを使って嘔吐が止まらず、脱水症状が続く場合には点滴治療が必要となります。吐き気が止まっているときには、経口補水液などを少量ずつ頻回に与えましょう。あんずだより特別号⑯（バックナンバー）に吐いた時のアドバイスが載っていますのでご参照ください。

（下のグラフの赤い線が今シーズンです）



表：2月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	胃腸炎(ノロ37例/1含む)	111
2	溶連菌	98
3	インフルエンザA	52
4	新型コロナウイルス	9
5	RSウイルス	8
6	リンゴ病(伝染性紅斑)	6
7	とびひ(伝染性膿痂疹)	4
8	みずぼうそう(水痘)	1
8	突発性発疹	1
8	ヘルパンギーナ	1

あんず通信バックナンバーはクリニックホームページからご覧になれます

～あんずからのお願い～

★**空き状況はWebで**
しみず小児科・内科クリニックのホームページから確認出来ます。ご予約は必ずお電話でお願い致します。



➡ 空き状況はこちらから

★**キャンセルをされる場合**
留守番電話で構いませんので**当日8:30までに必ずご連絡**をお願い致します。利用ご希望の方が1人でも多く入れるようご協力をお願い致します。

★**ご予約の際の注意事項**
診察を受けた**病名**によって、お部屋割りをしています。なるべく同じ病気のお子様と同じお部屋にすることで、子ども同士の伝染を防ぎます。また、インフルエンザや新型コロナウイルスの接触歴、流行状況等をお聞きしております。ご協力を宜しくお願い致します。

